



西日本区ホームページ・http://www.ys-west.or.jp/
西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2014年12月号

「主題」

- 国際会長** : 言葉より行動を
アジア地域会長 : 未来を始めよう、今すぐに
西日本区理事 : 「響きあい、ともに歩む To walk together, echoing each other」
 - ころ豊かにワイズ活動を展開し、ワイズスピリットをつないでゆく-
中部部長 : 「将来を見つめたワイズ活動!」を今やってみよう!
プラザクラブ会長 : 「継続するクラブ活動を進めよう!」
強調月間・活動 : 【EMC-E YES・EはExtension(新クラブ設立)。YESは、新クラブ設立を支援する基金です。
 この基金で集められた資金の2/3は集められたエリアに戻され、エリアの中で使われます。】

12月例会および今後の予定案内

【12月第1(クリスマス)例会】

日時: 12月13日(土)・18:30-

場所: ケンポー

費用: ゲスト・4,000円/人

【12月第2例会】

日時: 12月25日(木)・18:45-

場所: 名古屋YMCA会議室

内容: 次月例会の打ち合わせ

出席義務者: 役員(後藤・榎田・鈴木)

1月担当者(大島・西野)

2月担当者(鈴木・島崎)

【今後の予定】

1. ジャズボーカルの夕べ

日時: 12月16日(火)・17:30-

場所: ブルーノート

費用: 7000円/人(食べ放題、飲み放題)

2. 老人ホームへの音楽慰問

日時: 12月21日(日) 小澤宅集合・11:45

場所: アミーユ高辻(開始時間: 14:00)

3. クリスマスキャロル

日時: 12月23日(火・祝)現地集合・17:00

場所: 名古屋駅JRタワーズガーデン(雨天中止)

4. 1月第1例会(新年例会)

日時: 1月10日(土)18:45-

場所: みなと

費用: ゲスト・4000円/人

11月例会およびその他活動報告

(敬称略)

役員	会員氏名	出席者			
		1	2	①②③④⑤⑥⑦	
	大島 孝三郎	○	○	○○○	
	小澤 幸男	○	○	○	
書記	榎田 守隆	○	○		
会長	後藤 猛	○	○	○○	
	島崎 正剛	○		○○	
会計	鈴木 誉三	○	○	○○○	
	高田 廣	○	○		
連絡主事	西野 真希	○	○	○○	
ゲスト	大西中部部長	○			
諸活動	①チャリティラン準備作業 10/31				
	②チャリティラン 11/1				
	③会長連絡会 11/6				
出席率(%)				100.0	
クラブファンド(円)・当月/累計		18000	32000		
1月号寄稿者・小澤 (1600-2000字程度)					
2月号・鈴木/3月号・島崎/4月号・高田					

【2014-15年度クラブ役員】メネット連絡員・後藤猛/副会長.YMCA サービス・小澤幸男/プリテン委員長・榎田守隆/EMC. BF. EF. JWF. メール委員・大島孝三郎/広報事業・鈴木誉三/IBC. YEEP・島崎正剛/CS. TOP・高田廣/連絡主事・西野真希

11 月第 1 例会報告

日時:11 月 13 日(木)・18:45-20:30

場所:名古屋 YMCA 会議室

1. 卓話「仏教四方山話」

講師・想念寺住職 渡辺観永氏

「今回、ここにお招きいただくのは 3 回目です」とお話が始まった。仏教で「三」は、三脚のように平面に物が立つ最小の数字で「自立するエネルギー」として縁起が良いとされています。木魚は 3 つの珠が積み重なった宝珠ともいい、口に珠をくわえた魚の形をした魚板が元で、木槌で打ち鳴らして「時」を知らせるものです。仏教では「とき」は「斎」と書き、A から B に移り変わる時間を意味し、「中陰」と呼ばれています。お話は、東日本大震災で被害の大きかった岩手県大槌町へボランティアに出向いたことに移る。プロジェクターを映しながら、地震時の避難訓練が行き届いていたため、学童の被害者数が少なかったこと、民宿のビルに打ち上げられた遊覧船を震災の遺構として残すことへの住民感情、井上ひさしが書いた「ひょっこりひょうたん島」の舞台となった沖合の蓬莱島のエピソードなどが語られた。最後に、御嶽山噴火で亡くなったある宗教団体の子どもの葬儀報道に疑問を呈し、信者を搾取するカルト宗教への警告でお話を結ぶ。



2. 大西中部部長

11 月 29 日、名古屋通信ビルで開催される中部評議会にて「中部 200 委員会」を立ち上げたい。現在部費は各クラブ 1 人当たり 3000 円ですが、各クラブ当たり 10 万円とし、年に数回「特別例会」を開催する。特別例会とは、著名な講師を招いてホテルなどで講演会を催し、ワイズメンバーは友人、知人同伴で参加していただき、その内からワイズの活動に賛同した方を会員に誘う、というのが目的です。

3. 連絡事項

(1) 後藤会長

12 月の第 1 例会

(2) 小澤

老人ホームへの音楽訪問

以上、詳細は 1 面参照のこと。

(3) 西野

YMCA 報告・今後のチャリティーラン開催について、雨天

の場合の準備不足が反省点、みなさんにご迷惑をおかけしました。

11 月第 2 例会報告

日時:11 月 27 日(木)・18:45-19:45

場所:名古屋 YMCA 会議室

1. 連絡事項・後藤

(1) 各会合への参加者確認・後藤

a. 中部評議会/EMC 推進委員会

後藤・島崎・大島・榎田

b. 名古屋 YMCA 大会

大島・榎田・後藤・島崎・高田・西野

c. 懇親会(浩養園)

大島・小澤・榎田・後藤・島崎・鈴木・西野

d. クリスマスキャロル

大島・小澤・榎田・後藤・島崎・鈴木・西野

(2) 12 月第 1 例会

(3) 老人介護施設への音楽訪問

(4) 12 月第 2 例会

(5) 1 月第 1 例会(新年例会)

以上、詳細は 1 面参照のこと

2. クラブ解散届(案)について・榎田

解散月日・理由と経緯・残余財産の処分・クラブ事業の扱いなどを討議、1 月 29 日(木)の会長連絡会議に公表できるよう 1 月第 2 例会(1/22)までにまとめる。なお、解散届には「メンバー確認」項目に全員捺印しますので 1 月の第 2 例会の時は認印を持参ください。

チャリティーラン前日準備

今年も毎年恒例のチャリティーラン前日準備が YMCA 1 階会議室で 18 時頃より行われました。実は毎年、受付担当のボランティアスタッフの皆さんは少し早めに集まって準備をしてくれています。毎年やっていたいいるみなさんですので、テキパキと準備が進みます。いつものことながらここへきての参加者の追加や欠席連絡などにも臨機応変に対応していただき、毎年感謝の気持ちでいっぱいです。そして多くのボランティアの方が集結して始まる“らっふる”商品の袋詰め作業の開始。毎年商品を陳列しつつ、袋に詰めて、できあがったものを段ボールに詰めていく作業の繰り返しですが、みなさんこちらもとても慣れた手つきで着々と準備が進められていきます。『最初は終わりが見えない…』と思える作業も、たくさんの方と一緒に進めていくとちゃんと終わりがきて、『よ～し！おしまい！』となります。その他にも小澤さんにお借りする Hammond オルガンの運搬や、機材・備品を車へ詰め込む作業など。前日の準備は当日同様、多くのボランティアの方のおかげで進められます。前日の準備は年々スムーズに進んで、今年も無事に終わることができました。

(西野 真希)



(写真撮影・大島 孝三郎)

チャリティーラン報告

第21回チャリティーランが、大会初の雨の洗礼を受けた。今までが、天候に恵まれ過ぎていた事で、きっと感謝の思いが不足していたのに違いありません。その雨の意味をいまいちど考えて、さらなるチャリランへと発展していく機会を与えられたに相違ありません。あの雨の中でみんな良く働いていました。特に若者は皆献身的でした。晴れの日には見られない姿をそこここに見る機会を得られたことは幸いでした。今度は雨の中でのより楽しいチャリランのプログラムを考える楽しさを得ました。鼻歌はきっとミュージカルの「雨に歌えば」を全員で合唱しながらも楽しいかもしれません。でもこれは私の年齢くらいに通じる思い出でしょうが、今の若者だとどんな歌になるのでしょうか。



(写真撮影・大島 孝三郎)

我プラザは、5名の参加。体調不良で2名の欠席は気がかりでしたが、与えられた仕事を無事に終えられたことに安堵するばかりです。コースに立っていて、40代以

上の年齢のランナーが、あえぎながら通過する背中に、昔に参加して2度と参加しないぞと後悔し続けていた自分が重なりました。そしてガンバレと昔の自分にエールを送りました。これも雨の効果かもしれません。雨は気持ちをウエットにさせてくれます。

いずれにしてもこれだけ長年にわたって続けてこられたのは、多くの人の思いにささえられてこられたからこそで、不必要なものはすたれていたはずで。チャリティーランに幸あれ。

(島崎 正剛)

陶芸教室・施釉と窯だし

9月27日に作陶したものを先生が素焼きしてくれた。生徒は11月15日佐渡山工房に集まり、作陶した素焼き素地をペーパーやヤスリで整え、模様を描き、釉薬を掛ける作業をする。形が良くてもこの工程次第で出来不出来が90%決まる。釉薬(うわぐすり)は透明釉、織部、黄瀬戸があるが、どれをどのように素地に施すか考えどころである。施釉を終えて今度は窯入れ、棚板に作品を高さを揃えて並べ、棚板の四隅にL字型の支柱を立て、また棚板を載せと同じことを慎重にする。午後4時、窯のふたを閉じて火を入れる。



17日の午前10時窯の火を止め、支柱が倒れないようにそっと棚板を外し、作品を取り出して水に30分ひたした後、薄い酸性液に浸ける。1時間待って水で洗って完成である。



バスケットボール五輪出場ピンチ

最近ではテニスの錦織圭選手やフィギュアスケートの羽生結弦選手など、若いスポーツ選手が世界で活躍する姿をメディアで見ることが多くなりました。2020年に東京

オリンピック開催も決定し、若い世代の活躍に期待をしている人も少なくないかと思えます。私もスポーツ観戦が好きで、東京オリンピックはぜひ観に行けたら・・・と、今からチケットを入手するにはどうしたらいいのか？と情報を集めています。特に私自身が小学生の頃から競技していたバスケットボールを観戦したい！と思っています。ご存知の通り、バスケットボールはアメリカのYMCAで誕生したスポーツで、名古屋YMCAでも毎年『YMCA市内中学生バスケットボール大会』を開催しており、競技人口も少なくはないスポーツです。(私が中学生の頃には“スラムダンク”という漫画が流行り、男子のバスケットボール人口が急激に伸びました)愛知県は特にバスケットボール王国と言われるほど、各年代で全国的な強さを誇っています。そのバスケットボールが現在、国際試合の出場や2020年の東京オリンピック出場が危ぶまれている状況にあるのです。2009年頃から、国際バスケットボール連盟(FIBA)が日本のバスケットボール協会(JBA)に以下の問題を解決するよう再三の警告しているのです。

- ① トップリーグの統一(現状:NBLとbjリーグの二つがある)
- ② JBAのガバナンスの強化と事業性の向上
- ③ 男子代表の強化

これらの問題を解決、もしくは方向性を提示しないと日本の国際試合の出場を認めない、という最終勧告が10月にされてしまいました。現在も新リーグ組織委員会が結成され、FIBAから提示された問題解決に向けて話し合いがされている、ということです。

そんな中、バスケットボールのシーズンが始まり、私も早速NBDL(NBLの2部リーグ)のアースフレンズ東京Z対豊田通商(愛知)戦の試合観戦に大治町スポーツセンターまで行ってきました。実はアースフレンズ東京Zには私と同年代のプレーヤー渡邊拓馬選手がおり、その選手を目標に応援をしに行きました。彼は大学時代に関東大学リーグで4年連続得点王を取るなど、華々しい活躍をしており、卒業後は日本リーグ1部で活躍し、日本一にも貢献している選手です。その選手が今は2部リーグに所属するチームに在籍して頑張っています。このチームは今年初めて参戦した新しいチームで、東京大田区をホームに全員がプロとして所属しているチームです。いまのバスケットボール界はとてつもない厳しい状況にあり、プロ野球やJリーグの世界のような高額な年俵にはもちろん及ばず・・・地道な地域貢献をしながらチーム運営をしています。

試合は緊迫した展開で、見ている観客にとってはとても面白い試合内容でした。今のバスケットボールの試合は、コートサイドにDJがいて実況をしながら試合を盛り上げてくれ、チアリーダーのダンスやポップな音楽が流れていて、会場全体が賑やかな雰囲気になっています。男子の試合ともなるとダンクシュートなど派手なパフォーマンスも見ることができ、とても迫力があります。バスケットボールは展開が早く、シュートを決めたとと思っ

てもすぐにシュートを決められてしまう恐れのあるスポーツで、目が離せません。アツという間に得点されてしまうこともあります。一度会場で迫力あるプレーを見ると、きっと『面白いな!』と思ってもらえると思います。男子・女子・プロ・大学生・高校生・中学生・ミニとそれぞれのカテゴリー毎に面白さが違うので、それも魅力の一つかと思います。女子の試合となると、徹底した守りやチームプレーを見ることができます。ミニ(小学生)の試合でも、こちらが感嘆してしまうプレーを見ることができたり、一生懸命な姿を見ることができます。YMCAに大きく関わりのあるバスケットボール。ぜひ一度会場に足を運んでいただき試合観戦をおすすめします!先に記述した大きな課題がある中ですが、バスケットボールを盛り上げていくことでそれらの問題が良い方向に進んでいくことを願うばかりです。

(西野 真希)

聖書の言葉

【イエスにさわっていただくために、人々が幼な子らをみもとに連れてきた。ところが、弟子たちはそれを見て、彼らをたしなめた。するとイエスは幼な子呼び寄せた。「幼な子をわたしのところに来るままにしておきなさい、止めてはならない。神の国はこのような者の国である。よく聞いておくれがよい。だれでも幼な子のように神の国を受け入れる者でなければ、そこに入ることは決してできない。(ルカによる福音書 18:15-17)】

【ノンクリスチャンのわたしが、この項を書くのは荷が重く毎月ネットを参考にしている。今回は子どもの素直さを「だから」で警えている。『大人は「だけど」を考えずしてしまいます。「イエス様が好き。だけど、人間付き合いも大事」、「神様を信じる。だけど、日常のことも大事」、「教会に行きたい。だけど、今週は他にもやりたいことがある」、「天国に入りたい。だけど、今はそれどころじゃない」などなど。でも子供は「だから」で考えます。「イエス様が好き。だから、イエス様のところに行きたい」、「神様を信じる。だから、神様に喜ばれたい」、「教会に行きたい。だから、他のことは後回し」、「天国に入りたい。だから、イエス様に「おいで」って言われるようになりたい」。そんな子供のようにでなければ、たとえ弟子たちが止めようとしてもイエス様のところに走っていく子供のようにでなければ、神の国に入ることはできないのだよ、とイエス様は教えているのです。】

【5年前、わが家の前のお屋敷が取り壊され、200坪の土地に3軒の家が建った。間もなく子ども連れの3家族が引っ越してきた。久しぶりに外で遊ぶ子どもの声が聞こえていたが、ある日から静かになった。親に「うるさい」との電話があったらしい。保育所の子どもの声を騒音とする近隣のトラブルが増えている。ある調査で「子どもの声は騒音ですか」との問いに48%の人が「はい」と答えている。われわれが子どもの頃、遊んでいて「うるさい」と言われた記憶はない。昔はよかった!!】